

## 平成23年度 第2回木更津市史編集委員会 会議録

1. 会議名 平成23年度 第2回木更津市史編集委員会
2. 開催日時 平成23年9月28日(水) 午後1時30分～3時00分
3. 開催場所 木更津市立図書館小会議室(2階)
4. 出席者 市史編集委員会委員 出席5名  
金子 馨委員、橘田 昭雄委員、藤平 量郎委員、須田 昭平委員、鹿間 和久委員  
教育委員会事務局5名  
初谷教育長、石井教育部長、本多文化課長、浅野主幹、中能主査、時山事務員
5. 議題及び公開又は非公開の別  
議題1 調査研究等の進捗状況について(公開)  
議題2 その他  
(非公開の理由)
6. 傍聴人 なし。

事務局(浅野主幹) ただ今より、第2回木更津市史編集委員会会議を開会いたします。  
本日の市史編集委員会は、梶山委員・高崎委員・實形委員・三浦委員・野中委員より都合により欠席のご連絡がありましたのでご報告します。会議につきましては、附属機関設置条例第6条第2項の規定により委員の半数以上の出席により成立しております。  
また、本日の会議は公開で行い、会議録の作成のため、録音をさせていただきますので併せてご了解願います。  
それでは、はじめに初谷教育長よりご挨拶を申し上げます。

初谷教育長 (初谷教育長挨拶)

事務局(浅野主幹) 次に、橘田委員長よりご挨拶をお願いいたします。

橘田委員長 (橘田委員長挨拶)

事務局(浅野主幹) ありがとうございます。では、これから議事に入らせていただきたいと思っております。議長は、委員長をお願いする規定となっておりますので、橘田委員長に議長をお願い致します。

橘田委員長 それでは、議長を務めさせていただきます、宜しくお願い致します。  
では、議事に入らせていただきます。議題「調査研究等の進捗状況について」

て」事務局から説明をお願いいたします。

事務局（浅野主幹） （事務局（浅野主幹）より説明）

橘田委員長 ただ今、事務局から説明がありましたが、なにかご意見・ご質問があればお願いいたします。

鹿間委員 前回の資料等を見させて頂きましたが、304頁のうち149頁の提出があつて49.0%の進捗ということで、今回プラス40頁で進捗率が62.2%になったということですのでよろしいですね。会議録で事務局は9月末を目処に原稿を集めたいとご発言してありますが、進捗状況はどうなってますか。

事務局（浅野主幹） 原稿が集まらない限り前に進めませんので、引き続き戸別訪問を含め、早期に原稿提出して頂くという状況であります。

鹿間委員 もう1点、事務局の説明であつた議会史の関係を入れることを検討しているようですが、委員会の方針等そのあたりの調整はどうなってますか。

事務局（浅野主幹） 説明不足でした。今回の市史に議会の活動状況のようなものが入ったほうが、市民の方々も議会に対する理解が深まるのではないかとご提案がございました。全体の構成につきましては、昨年から協議していただいています。構成についてまだ了解を得ていないので、今回論議していただき、委員会の方針を決めていこうと考えております。

鹿間委員 構成の中に議会史を入れるか入れないかを今回の会議で決めるということですか。

事務局（浅野主幹） はい。

事務局（本多課長） 今回の件につきまして、ぜひ取り上げて頂きたいということでお願いします。来年70周年ということで、市民の方が、市民の代表が行っている議会について知っておくこともよいのではないかと話もありますので、遅れて入ってきたということで申し訳ないのですが、近現代あたりに取り上げて頂きたいと思います。

橘田委員長 はい。わかりました。それでは、近現代にかかわらず議会の活動状況に1項目設けて入れたいという事務局からのご提案がありましたので、その点に

ついて協議をしたいと思います。近現代担当の方がいないので事後承諾になりますが。皆様方、近現代の「戦後木更津の変貌」項目、「戦後の社会と文化」というところを開いてください。「戦後木更津の変貌」というのは、多くの木更津の動きを7つの観点から見てみようという項目立てになってます。

それから「戦後の社会と文化」というのは、木更津の戦後の社会あるいは文化の動向が6つの項目を立てて、それぞれもう原稿があります。どうしても議会の活動状況を入れたいというご意向がございしますが、どこへ入れたらよいかということですね。

「戦後木更津の変貌」に①占領期の木更津、②近隣町村との合併という項目がありますが、他の項目との釣り合いがとれませんから、⑦拡大する市街地の後に入れるのか。それとも、「戦後の社会と文化」にある①民主化の嵐のなかでの次あたりはどうですか。金子先生何かご意見ございますか。

金子委員

50周年記念のとき現在の状況のようなパンフレットのようなものを出してましたね。

事務局（浅野主幹）

企画課で出していますが、今回は出さない予定となっております。今回のお問い合わせは、歴史の流れのなかでいわゆるダイジェスト版に議会の活躍をぜひ取り上げていただきたいという趣旨でした。市議会自体は戦前からあるということで、一応戦前は若干触れて頂くとしても、主に戦後22年頃の地方自治法の施行に伴う現在の市議会の成立から現在までを取り扱ってこうと考えております。そういうこともありますので、市町村合併が28年頃の関わりの話で進むことになります。

「戦後木更津の変貌」①占領期の木更津で戦争後の20年代から若干触れておりますので、この間に市議会の誕生から現在まで2頁ほどの項目と、それか、「戦後の社会と文化」のなかで①民主化の嵐のなかでという部分と②戦後教育始まるのあたりに戦後の市議会の活動を取り上げるのはいかがかと2案あります。雰囲気的には制度が主なので「戦後木更津の変貌」①の次に取り上げたらいかがかと思えます。

事務局（本多課長）

頁数を2頁と言いましたが、4頁になる可能性もあります。ご了解いただきたいと思えます。

須田委員

要するに市議会を取り上げてほしいとの要望があった。それはどのような内容の要望だったのですか。市議会のことが欠落しているから、何か入れてくれという抽象的な言い方だったのですか。

事務局（本多課長） 市議会のなかで、市議会が始まってから、市議会の活動の中で議員定数だとか基地対策特別委員会等の設置、一般質問が一問一答制になったこと等もありますので、その流れを市民の方に知ってもらいたいということもあり、取り上げて頂きたいということです。

鹿間委員 4頁の近現代の「近代木更津の政治と経済」の最後あたり木更津政界は、先ほど言いました昭和20年代から現代までとリンクしていませんか。

事務局（浅野主幹） 4頁の近現代では明治・大正期の事柄を取り扱おうというような大枠がございまして、そしてその次に「戦争の時代と軍都木更津」ということで昭和を戦前の少し前のあたりから終戦までというように戦時下の様子という組み立てになっております。また次の「戦後木更津の変貌」、「戦後の社会と文化」で戦後という大きなくくりがございまして。市議会は、先ほども申しましたように戦前からありますが、現在の議会は地方自治法の施行に伴って新しく始まった民主的な議会制度とのこととございまして、このあたりにおくのが良いと思います。

当然、前段階ということでも最初の市制施行後の議会の若干触れていただくにしても、戦後の議会のメインとして戦後の市議会の流れを市民の方に知ってもらうことが趣旨でございまして。ですので、戦後の枠だけで取り扱ったほうがよいのではないかとお話をさせていただきました。

橘田委員長 藤平先生、何かご意見があればどうぞ。

藤平委員 はい、今の意見でよいと思います。

橘田委員長 では、議会関係の活動状況を構成に入れてもよろしいですか。ご賛成であれば取り上げましょう。

ところで、タイトルはどうなりますか。

事務局（浅野主幹） 仮題ですが、「市議会のあゆみ」だとか「市議会の活動」だとかを考えています。

橘田委員長 「新しい市議会の活動」ですか。

事務局（浅野主幹） はい。

須田委員 最近の市議会の一問一答だとか、近代木更津の変貌のなかで、戦後から現

代まで相当な枚数がないと辿り着かないのではないですか。

事務局（浅野主幹） そのあたりはですね、原則2頁でございますので、詳細な内容になりますと取り上げるのは難しいと思いますので、こちらの思惑といたしましては新制度発足に伴って新たな活動が始まって、途中経過があって、最近では議会改革の流れのなかでこのような取り組みが行われていると、そのなかで一問一答だとか定数問題だとか取り扱われております、というところで止めるのが適当ではないかと考えています。

橘田委員長 そうですね。2頁または4頁と範囲が決まっていますから。新しい動きだとか民主化された市議会の様子とか最近言われているような議会改革ですか、定数削減されたり、あるいは、議会が市民の代表として意見を反映していく動きとかを載せて、市民の皆様にご覧いただくというようなことですかね。新しい議会の様子がわかる写真等も入れながらね。とにかく、取り上げるということによろしいですか。

各委員 はい。

金子委員 4頁に近現代の「近代木更津の政治と経済」とありますね。⑨木更津政界の様相とありますが、このあたりは戦前のことについて多少触れていて、関連がありますね。そして戦後の木更津のところに関連付けて入れていくことができる。

「戦後の社会と文化」よりは「戦後木更津の変貌」のなかに位置付けたほうがよいと思います。

橘田委員長 金子委員の位置付けのご意見に従えば、戦後木更津のなかの①か②のあたりですかね。藤平委員どうですか。

藤平委員 ②の下あたりがよいと思います。

橘田委員長 鹿間委員どうですか。

鹿間委員 質問ですが、議会事務局と調整しましたか。議会事務局も市史のなかに入れてくれとおっしゃたのですか。議会史は作らないのですか。

事務局（浅野主幹） 聞いたところ10年史が出ていて、次をという話があるそうですが、まだ具体的ではないそうです。70周年記念の機会に、特に近年の議会改革の状況

を入れていただきたいという話でした。

鹿間委員

わかりました。私は「木更津政界の様相」というところの原稿がないのでどうなっているのか気になりました。そこが入ってくれば、戦後か戦前ですか、そのあたりが触れられて、リンクして、「戦後の木更津の変貌」のなかの②の次あたりにまた新たな改革が羅列されていれば2頁ぐらいで収まるかと。

初谷教育長

それは2カ所に分けて記載するということですか。

鹿間委員

いえ、どうなっているのか知りたかっただけです。戦後こういうことをしてきたと載せるのが議会の意向でしたら、「戦後の木更津の変貌」のところに2頁ぐらいで収まるかと。あえて戦前の議会のことが触れられていなければ、触れなくてもよいのですが、若干触れている部分があるので、どのように見られているのか。触れられていなければ全然関係ないです。

須田委員

近現代のところの⑦市制施行されるというところのなかに昭和18年の第1回市議会選挙行われるとあり、木更津初代市長選出は協議が紛糾したという話が載っています。先ほどいいました近現代のところでそういう項目がちらりばめられているのでしたら、必然的に2頁をとるところはある程度限定されてくると思います。そのあたりの整合性を考えていかないといけないかと思えます。

橘田委員長

さて、「戦後の木更津の変貌」②の下に③を設けて、そこに新しい市議会の動向を入れたらどうかという意見がありますがよろしいですか。部長、ご意見があればどうぞ。

石井部長

事務局が話をさせていただいたとおり、議会としては同じような考え方のようです。私も直接議長と議会事務局長とお話させていただきましたが、事務局から発言ございましたとおり、ぜひとも70周年記念の冊子のなかに割り当てられた頁で結構ですので、入れていただきたいという強い要望がございました。

橘田委員長

強い要望でございますか。さて、そういうことで今日1つ決定をしたことにいたします。では、執筆は誰がやるかと問題が出てまいります。

事務局（本多課長）

議会事務局で作成してくださるということで了解は得ております。

橘田委員長 議会事務局がですか。

事務局（本多課長） 当然、表現方法等含め他と釣り合いがとれるよう同じような書き方をさせていただきます。そのあたりはこちらの事務局と議会事務局で話し合いをさせていただきます。

橘田委員長 お忙しいでしょうが、よろしく願いいたします。では、この件につきましては決定をいたします。  
他の議題に入ります。藤平先生、何かありますか。

藤平委員 三浦委員と話したのですが、袖ヶ浦の博物館でですね、第二海軍航空廠について話を聞かせていただいたのですが、袖ヶ浦から話があるのは少しおかしいのではないかと思います。あれは岩根ですよ。どうして袖ヶ浦かというと坂戸神社に第二海軍航空隊が疎開したそうです。  
もう1つは木更津航空隊ですね、日本初めてのジェット機が作られてそれが袖ヶ浦に来たのです。

橘田委員長 航空隊からですか。すぐ近くですからね。

藤平委員 そうです。やはり市街地は比率が悪いです。いわゆる日本最初のジェット機が木更津航空隊ですね。第二海軍航空廠は何人雇っていたのか、巖根駅は第二海軍航空廠のために造られたのです。そういう事情があるので、私は木更津海軍航空隊の解説に文章を入れました。  
しかし、近現代では第二海軍航空廠のことは、一言も触れられていないわけです。これは岩根の人は皆知っていますからね。第二海軍航空隊の解説あたりに入れたほうがよいのではないかと。栗原先生は若いからあまりご存知ではないかと思います。

橘田委員長 藤平先生は第二海軍航空廠へ行ったのですか。

藤平委員 2年間、正味1年行きました。航空廠で整備されたものの試運転等をしていました。第二海軍航空隊の解説のところに行か付け加えるのがよいと思います。

事務局（浅野主幹） すみません。私も全部を読んでいなかったのですが、近現代の⑨木更津航空女学校の学徒勤労働員で第二海軍航空廠に動員されたと触れられているようです。





るほうも大変だと思いますが。どんどん伸びると後が大変です。関連を考えると早く出していただかないと。

事務局（浅野主幹） その点も含めまして催促してみます。

金子委員 古い難しい漢字は、ルビをつけて出して頂いたほうが誤解、間違いもなく良いと思います。

橘田委員長 そうですね。原始古代のあたりだと、ルビをつけないと一般の市民がわからないことも出てきますね。

金子委員 図説だから図説で理解していただくとなると、どうしても文章が短いので難しいですね。なるべく1文は簡潔明快にしなくてははいけません。編集は誰かに見てもらわないといけませんよね。個性的な文章が多くありますから。

橘田委員長 図説だから図、写真そういったものが大事ですし、文章もそれに沿って書いて頂くことになります。基本的には市民の方が読むというのが前提になりますから。

金子委員 私は小学3、4年生向けの「私たちの木更津」を編集したのですが、私が受け持っている3、4年生に自分の書いた原稿を見せて感想を聞くと、意味がわからないと言われました。専門家が読んで良いと言われるよりも、一般の方が呼んでわかるように打診していかないと。特に市史のように分厚いものです。図説だから教科書程度の文章表現にしないと魅力のあるものにならない気がします。

橘田委員長 前に週刊朝日で編集していた人は、対象を小学校4年生ぐらいにしていたそうです。今で言えば、高等学校1年生が読んでわかる文章が一般的に市民にわかりやすいのだそうです。高校生といっても学力の差がありますが、そのことを念頭にルビをどうするか、文章を平易にしていけるかですね。

時間が迫っておりますが、自然班の藤平先生、一通り書いて頂いて、何か問題点・課題ございましたらどうぞ。

藤平委員 自分では平易に書いたつもりでも、一般の人はそうではないというところがあります。我々は専門家として話していますから。まだ直す余地はあると思います。

橘田委員長 自然班が一番優秀ですから。金子先生、原始古代で何かありますか。

金子委員 各項目との関連ですね。難しいですね。

藤平委員 原始古代は写真がいろいろあると思いますが、中世はどうしますかね。

橘田委員長 そうですね。中世は資料関係が苦労していますね。明日も佐藤教授がこちらへ来て現地を見て回って写真を撮るそうですけど。中世は本当に資料問題が大変容易ではないようですね。その分、文章で書くのですかね。これ、イラストは使わないのですか。

事務局（浅野主幹） まるっきりではないですが、たとえば自然班でいうと2頁に図が入ってまいります。担当の先生が作成されたものです。場合によっては印刷に載るように専門家に作って頂くかたちになるかと思いますが。自然章の10頁の下の方に太田山の植生図ということで原稿になるような元図を提供して頂きましたが、事務局のほうでは図が作りきれませんので、とりあえずこういう図が入るといことで、それをコピー・縮小してここに取り込んであります。これが正式な図になってきます。中世でも源頼朝伝説がある場所を図にしてくれないかという要望がございましたので、いくつかは図が入ろうかと思えます。図よりは写真が多いかと思えます。

橘田委員長 他の市の図説を見ても稲刈りの様相等を絵で書いてある市もありますね。写真がない場合に絵にする場合があるのかと思いました。

事務局（浅野主幹） 場合によってはそういうことも考えてまいります。

橘田委員長 写真があれば一番ですが。中世はどうなるのかと思いました。

事務局（浅野主幹） 中世は今、いろいろと見せて頂いてますが、これまであることは知られてますが、実際に古文書がどのようなものか、物自体について誰もご存知ない状況です。内容についてはどこでも出ていますが。古文書の写真を掲載してくれと言われていきますので、内容的には写真が中心になるかと思えます。

橘田委員長 大変なことですが、早く90%ぐらいまで原稿を提出して頂かないと全体像がなかなか見えてこないです。写真をどういう位置付けにするか、印刷の技術的なこともありますし、いろいろお忙しいなか頑張って頂きたいと思えます。意見がなければ、以上で議事を終了いたします。事務局の方に何かありますか。

事務局（浅野主幹） 次回の会議は12月2週目頃に開催を予定しておりますので、よろしく  
お願いいたします。

橘田委員長 ただ今、事務局から次回の会議の開催予定の連絡がございましたが、よろ  
しくお願いいたします。それでは、本日の議事は、以上で閉じさせていただきます。

事務局（浅野主幹） 委員の皆様方には、長時間にわたりご審議をいただき誠に有難うございま  
した。以上を持ちまして、第2回木更津市史編集委員会を終了させていただきます。有難うございました。

平成23年9月28日

議事録署名人 木更津市史編集委員会

委員長 橘田 昭雄